

令和5年度 第3回小田原市総合教育会議

日時：令和6年1月31日（水）

午後4時15分から5時45分

場所：小田原市役所 全員協議会室

次 第

1 あいさつ

2 議題

（1）市立幼稚園における幼児教育について

【資料1】市立幼稚園における幼児教育について

3 その他

240131第3回総合教育会議 資料

市立幼稚園における幼児教育について

- 市立幼稚園をとりまく状況
- 市立幼稚園における幼児教育
- 市立幼稚園の今後のあり方

■市立幼稚園をとりまく状況

酒匂幼稚園 (S28開園)



矢作幼稚園 (S49開園)



東富水幼稚園 (S45開園)



下中幼稚園 (S37開園)



報徳幼稚園 (S53開園)



前羽幼稚園 (R4休園)



◆ 私立幼稚園

新玉幼稚園	栄町四丁目
浅野記念 御濠端幼稚園	城内
鴨宮幼稚園	上新田
こゆるぎ幼稚園	永塚
城山幼稚園	城山二丁目
富水幼稚園	飯田岡
みみづく幼稚園	城山四丁目
友愛幼稚園	北ノ窪
れんげ幼稚園	東町三丁目
花園幼稚園※	南町二丁目

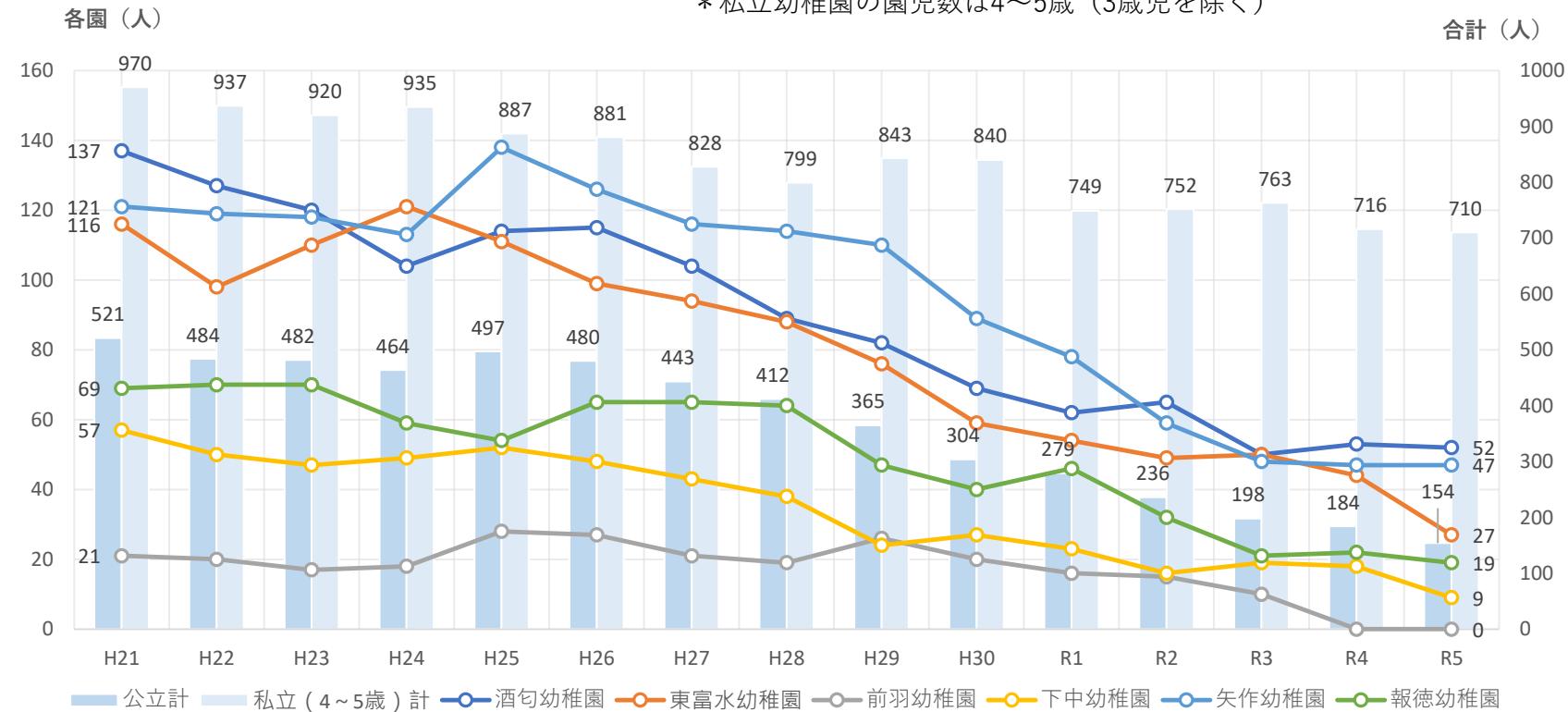
※花園幼稚園は認定こども園

■市立幼稚園をとりまく状況 園児数

◆ 園児数（公立・私立）の推移

*学校基本調査結果より作成

*私立幼稚園の園児数は4～5歳（3歳児を除く）

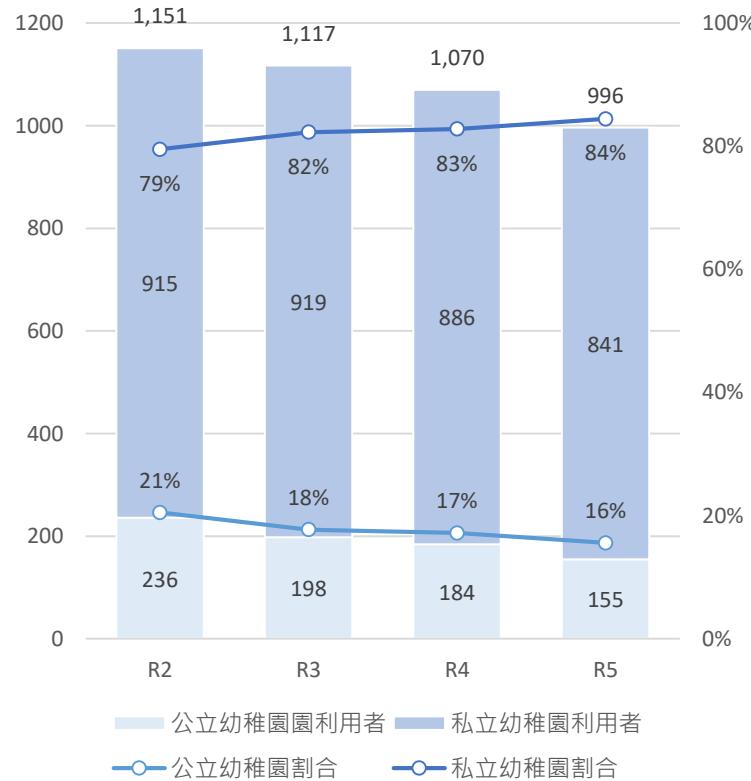


◆ 市立幼稚園 令和6年度園児数見込み（R5.11.2現在）

	酒匂	東富水	下中	矢作	報徳	合計
4歳児	24	11	7	11	11	64
5歳児	26	12	6	25	6	75
計	50	23	13	36	17	139

市立幼稚園をとりまく状況 幼稚園利用者数等

◆ 幼稚園利用者数 (私立・公立別、4・5歳児)



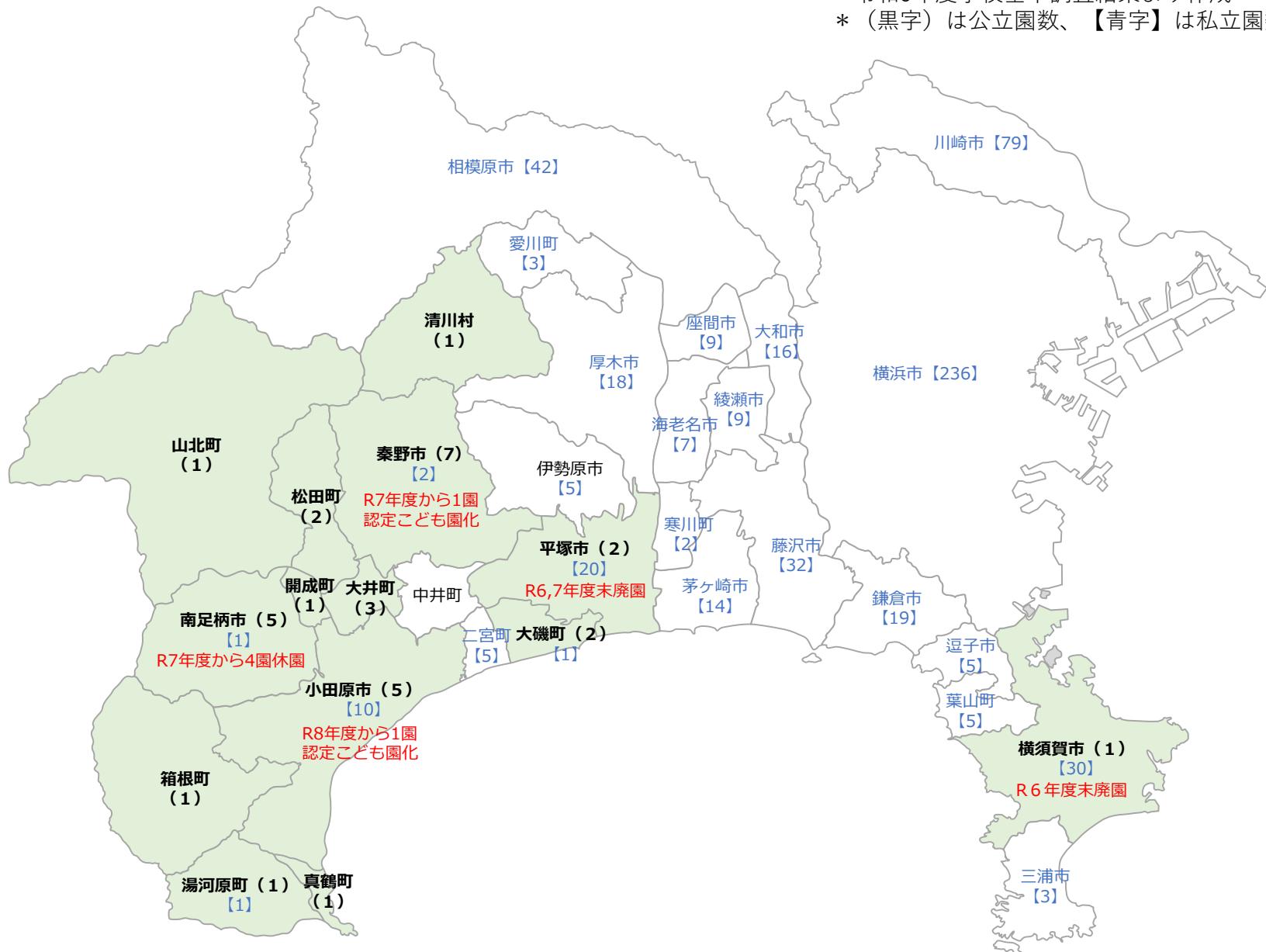
* 保育課資料より作成
* 認可外や障がい施設等は含まない
* 市外施設利用者を含む
* 認定こども園は、保育部・幼稚部で分けている。

◆ 保育所・幼稚園利用者数 (年齢別)



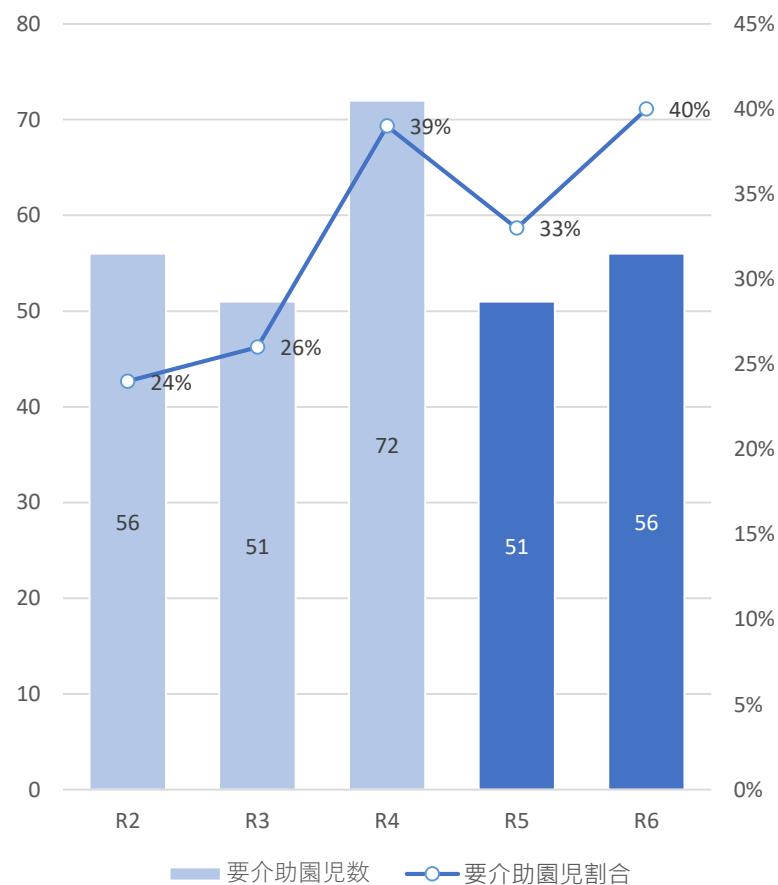
■市立幼稚園をとりまく状況 公立・私立幼稚園の設置状況（県内市町村）

* 令和5年度学校基本調査結果より作成
* （黒字）は公立園数、【青字】は私立園数



■市立幼稚園をとりまく状況 要介助児童数

◆ 市立幼稚園 要介助園児数



* R5年度就園予定者調査（R4.11調査）から、支援を要する園児の定義づけ。

* R6年度の値は見込値

◆ 各園の状況（要介助園児数）

	R2	R3	R4	R5	R6
酒匂	11	17	27	20	26
東富水	10	9	13	9	10
前羽	6	5	—	—	—
下中	3	4	8	2	5
矢作	18	12	14	14	9
報徳	8	4	10	6	6
計	56	51	72	51	56

◆ 各園の状況（要介助園児割合）

	R2	R3	R4	R5	R6
酒匂	17%	34%	51%	38%	52%
東富水	20%	18%	30%	33%	43%
前羽	19%	29%	—	—	—
下中	19%	21%	44%	22%	38%
矢作	31%	25%	30%	30%	25%
報徳	25%	19%	45%	32%	35%
計	24%	26%	39%	33%	40%

■市立幼稚園における幼児教育 幼稚園教育の方針



市立幼稚園における幼児教育 各園のR5年度経営計画

施設名	教育目標	目指す園児像	目指す幼稚園像
酒匂 幼稚園	心身ともに健やかでたくましい子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> ● 健やかな心と体の子 ● 最後まであきらめない子 ● 考えたことを実行する子 ● 感謝の心をもった子 ● 認め合う子 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもが健やかにたくましく育つ幼稚園 ● 保護者・地域と共に子どもを育む幼稚園 ● 職員が互いに学び合い教育に臨む幼稚園
東富水 幼稚園	認め合い育ち合う子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> ● 自ら関わることを楽しめる子 ● 粘り強く頑張れる子 ● 自分も友達も大切にできる子 	一人一人が輝く地域に愛される幼稚園
下中 幼稚園	社会力（聴く力・関わる力）の育成	<ul style="list-style-type: none"> ● やりたいことにじっくりと取り組める子 ● 自分も友達も大切にできる子 ● 元気に思い切り体を動かして遊べる子 ● 言葉での伝え合いを楽しめる子 	<ul style="list-style-type: none"> ● 幼児の学びと育ちを支える幼稚園 ● 保護者・地域と共にある幼稚園 ● 教師が共に学び合う幼稚園
矢作 幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ● 優しい心をもって、周りの人や身近な動植物に関わる子 ● 話すことや聞くことの楽しさを感じ、言葉を使って思いや考えを表現する子 ● 疑問や興味関心を持ち、遊びや活動に挑戦し、友達と一緒に最後までやり遂げる子 	元気、笑顔があふれる学びの多い幼稚園	
報徳 幼稚園	心も体も健康な子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> ● 明るく元気に挨拶のできる子 ● 友達に優しく関わる子 ● 元気に伸び伸びと遊ぶ子 	心豊かに、共に育ち合う幼稚園

■市立幼稚園における幼児教育 幼稚園での活動（一日・一年）

◆遊びや生活を中心とした一日



◆四季の自然や行事等を通して、豊かな体験を提供



3 幼児教育・保育

子どもたちの自己肯定感や主体性を育み、社会性の基礎の習得や基礎体力の向上を図るなど、幼児教育・保育の充実に努めます。

- 子どもたちの自発的な活動を通じて、様々な事象に関わる力や基礎体力など小学校以降の学びに向かう力、生涯にわたり生き抜く力の基礎を育みます。
- 小学校入学前の就学相談や就学支援の充実を図るとともに、家庭教育の自主性を尊重しながら家庭や小学校と連携を図り、子どもの育ちを支えていきます。
- 公立施設における教育・保育の実践を通じた研究のほか、幼稚園・保育所等の連携及び適切な役割分担により、市全体の幼児教育・保育の質の向上に取り組みます。

基本施策3－（1）幼児教育の充実

① 幼稚園・保育所等との連携と役割分担の推進

幼稚園と保育所は、互いに持つ教育・養護の知見を共有し、教育保育の実践や研究に取り組み、その内容等を民間事業者と共有し、市全体の幼児教育保育の質の向上に取り組みます。

② 小学校への円滑な接続

市立幼稚園、（保育園）では、小学校教育への円滑な接続を図るため、中学校区等を単位とした幼保小の交流・連携を図り、子どもの発達と学びの連続性の確保に取り組みます。

③ 就学支援・相談と早期発達支援の充実

小学校就学に際し、心配を抱えている保護者を対象に、在籍園の訪問や発達検査の実施などを通して、より良い就学先や就学後の支援について検討します。就学前の児童や、様々な課題等のある児童生徒に対しては、学校生活上必要な支援や環境等について検討するため、就学支援委員会を設置し協議します。

また、特別な支援を必要とする就学前の児童に対しては、児童発達支援サービスを提供することで、児童の情緒の発達や日常生活に必要な基本動作の習得、集団生活への適応が進むように支援をするとともに、臨床心理士等の専門家による教諭等への助言・指導を行います。

◆ 平成28年3月 今後の公立幼稚園のあり方に関する基本方針

- 平成27年度からの子ども・子育て支援制度への移行を捉え、公立幼稚園が果たす役割や、具現化に向け取り組む施策など基本的な方向性を定めている。
- 公立幼稚園が果たすべき役割の具現化に向け、公立幼稚園と私立幼稚園の役割分担、再編による適正配置、研究機能の強化と特別支援教育の充実について検討することとしている。

◆ 平成31年3月 小田原市公立幼稚園・保育所の今後のあり方

- 教育・保育ニーズの変化や、子供や子育て世帯を取り巻く社会環境が変化する中、諸課題に対して公立施設が果たす役割を明確にするために、今後のあり方を取りまとめ。
- 公立施設が果たす5つの役割を明示。研究機能としての役割、インクルーシブな環境づくりの役割、幼保小の連携と地域との連携促進の役割、地域子育て支援拠点の役割、教育・保育ニーズを量的・地域的に補完する役割。
- 今後の取組として、公立幼稚園については、資源・経費の有効活用の観点からも、統合・廃止を具体的に進めていくことに言及。

◆ 令和3年10月 小田原市立幼稚園の園児数減少への対応指針

- 平成27年から令和3年までの6年間で園児が半数以下となっており、少子化や保育所ニーズの高まりを考慮すると、今後も減少傾向は続くものと考えられる。
- 園児数の減少により、適切な幼児教育を提供することが難しい状況にあるため、「基本方針」や「今後のあり方」を踏まえ小田原市立幼稚園の園児数減少への対応指針を策定。
- 園児数の最低基準（1学年の園児数15人、1園の総園児数30人）を定め、基準を下回った場合は、公立施設が果たす役割を踏まえ、統合・廃止を段階的に進めていくことを前提に、複式学級の実施、翌年度の入園募集の停止、休園又は閉園を検討することとしている。

市立幼稚園の今後のあり方 今後の方向性

◆ 対応指針を踏まえた今後の方向性

- 対応指針に基づき、公立幼稚園の園児減少を捉え、幼児教育・保育の質の向上の観点から、私立幼稚園との関係性等を考慮した公立幼稚園のあり方を検討することを基本とする。
- 対応指針に基づくこれまでの対応として、R4年度から前羽幼稚園を休園としてきた。
- 下中幼稚園は、当該地域における幼児期の教育・保育の提供体制の確保の状況から、代替施設となる認定こども園整備が完了するまで存続することとしている。
- 報徳幼稚園はR3年度から、東富水幼稚園はR5年度から、対応指針に定める最低基準（1学年の園児数15人、1園の総園児数30人）を下回っていることから、保護者、地域住民等と話し合いを進めるとともに、地域における幼児期の教育・保育の提供体制の確保の状況等を踏まえ、対応指針に基づく対応を検討する。
- 市立幼稚園のうち、東富水幼稚園、矢作幼稚園、報徳幼稚園の3園は、人口急増期に私立園を補完する形で新設小学校と併設して開園したものであるが、現時点では量的には私立園だけで充足可能であると考えられ、今回の子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査によりこの点を精査する。
- 園児数が減少傾向にある一方、支援を要する園児は増加傾向にあるため、インクルーシブ教育を公立幼稚園のあり方の論点（私立幼稚園への補助・支援を含む）とし、私立幼稚園の意向把握を踏まえ、公立園のあり方について検討を進める。

【今後の展開】

